

注目ポイント

- ✓先週の金融市場は、為替・金利・株式ともに不安定な動きとなった。ドル円は乱高下しながら小幅に円安ドル高が進み、国内金利は米金利上昇や日銀の利上げ継続観測を背景に、約16年半ぶりの高水準まで大幅に上昇するも、週末には株安を受けて急低下。株式市場では、日経平均が週前半に3万8千円台を回復するも、週末には米国の追加関税の報道や配当権利落ちの影響で急落し、前週末比下落で終了。
- ✓今週の金融市場も、方向感が定まらず不安定な展開が予想される。4月2日に詳細が判明する予定の米政府による相互関税の詳細に注目が集まるが、為替市場では「ドル買いorドル売り」どちらの材料ともなり得る状況。また、株式市場では下落リスクがあるものの、事前の織り込みや関税規模縮小の可能性を踏まえ、反発の余地も残っている。国内金利は、日銀の追加利上げ観測と、機関投資家の期初の買いにより、需給バランスが拮抗か。（門倉英司）

①マーケット動向(実績データ)

2025年3月24日

～

2025年3月28日

市場・指標			3月24日 ～ 3月28日		3月28日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
株式	 日本	日経平均 (円)	38,221	36,865	37,120	-557	-1.5%	
	 米国	NYダウ (ドル)	42,822	41,530	41,584	-401	-1.0%	
	 ドイツ	DAX (ポイント)	23,205	22,378	22,462	-430	-1.9%	

市場・指標			3月24日 ～ 3月28日		3月28日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			最高	最低	終値	変化幅(%)	
金利 (国債)	 日本	10年 (%)	1.590	1.525	1.545	+0.035	
	 米国	10年 (%)	4.40	4.25	4.25	+0.00	
	 ドイツ	10年 (%)	2.83	2.71	2.73	-0.04	

市場・指標			3月24日 ～ 3月28日		3月28日	前週末比	トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	変化幅(円)	
為替	 米ドル (円)		151.21	149.02	149.84	+0.52	
	 ユーロ (円)		163.36	161.10	162.25	+0.70	
	 豪ドル (円)		95.40	93.50	94.21	+0.58	

市場・指標			3月24日 ～ 3月28日		3月28日	前週末比		トレンド (直近2か月)
			高値	安値	終値	騰落幅	騰落率	
その他	 日本	東証リト (ポイント)	1,731	1,702	1,724	+20	+1.2%	
	 米国	NY原油 (ドル)	70.22	67.95	69.36	+1.1	+1.6%	
		NY金 (ドル)	3,124	3,036	3,114	+66	+2.2%	

(注) Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成。 休日・休場の場合は、その前営業日の値を使用して作成してあります。

②マーケット動向(振り返り&予想)

2025年3月31日 ~ 2025年4月4日

株式

波乱含みの展開か

日経平均
【予想レンジ】 36,000 円 ~ 38,000 円

- 先週の日経平均は下落。週前半は、米株高や円安進行を背景に、終値で約1か月ぶりに3万8千円台を回復した。しかし、トランプ米大統領の追加関税発表を受け、また3月決算銘柄の配当権利落ちも重荷となり、週末にかけて急落。国内金利の上昇や貿易戦争激化の懸念が重なり、リスク回避姿勢が強まる週となった。
- 今週の日経平均は、波乱含みの展開となろう。報道されている自動車に対する一律25%の追加関税に続き、トランプ米大統領が4月2日からの相互関税の詳細を発表する予定で、その内容を受けて株価は下落する可能性が高い。しかしながら、足元の下落で、ある程度織り込んでいたの見方や、土壇場での関税見送りや規模縮小が決まる可能性もあり、その場合株式市場は好感することになるだろう。

金利
(国債)

もみ合いか

10年国債利回り
【予想レンジ】 1.500 % ~ 1.580 %

- 先週の国内金利は上昇。週央までは、米金利上昇や日銀の利上げ継続観測が国内債券の売り材料となり、10年国債利回りは約16年半ぶりに1.59%まで上昇する場面も。円安や機関投資家による年度末の損失確定売りも金利上昇圧力となった。ただし週末は株式市場が大幅に下落したことを受け、国内金利は急低下して取引を終了した。
- 今週の国内金利は、もみ合いか。先週発表された都区部CPI(3月)の伸び率が市場予想を上回り、引き続き日銀の追加利上げが意識される展開が予想される。一方で、先週40年国債入札が好調な結果となり、来年度に向けた機関投資家の投資行動も確認されている。今週は、米金利動向にも注意しながら、あらためて10年国債入札(3日)で、期初の需給を確認したい。

為替
(米ドル)

方向感なくもみ合いか

米ドル/円
【予想レンジ】 148.50 円 ~ 151.00 円

- 先週のドル円は、乱高下を伴いながら小幅に円安ドル高が進展。週央にかけては、トランプ政権の関税政策に対する警戒感の緩和や円買いポジションの解消から円安ドル高が進み、一時1ドル=151円台に突入する場面も。しかし、週末に米消費者の景況感悪化等を受けて円買いが優勢となり、最終的に149円台後半で取引終了。
- 今週のドル円はもみ合いの展開か。報道されている米国による自動車に対する一律25%の追加関税に続き、4月2日以降に判明するとみられる相互関税の詳細に関心が集まるが、関税強化が米国内の物価上昇に繋がるなどの思惑からドル買いの展開となるか、逆に世界経済に及ぼす悪影響を懸念したドル売りが優勢になるか、方向感は読みにくい。指標としては、週末の米雇用統計に注目したい。

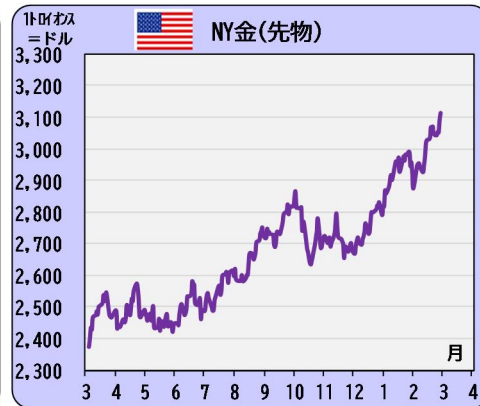
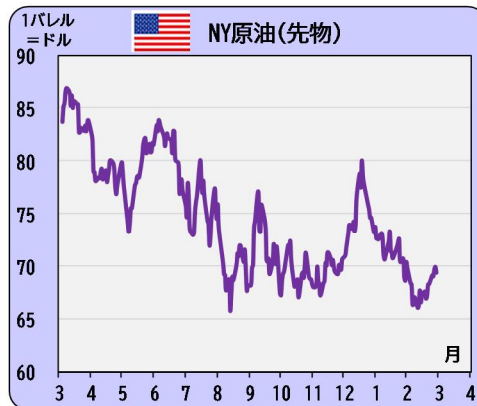
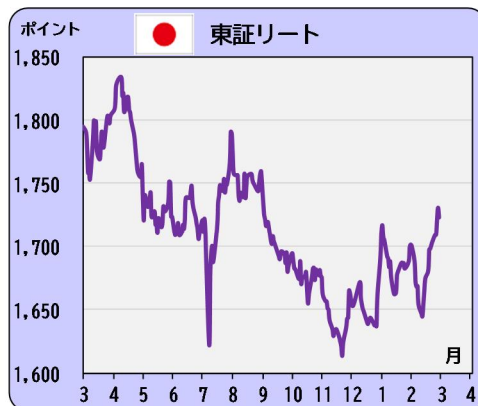
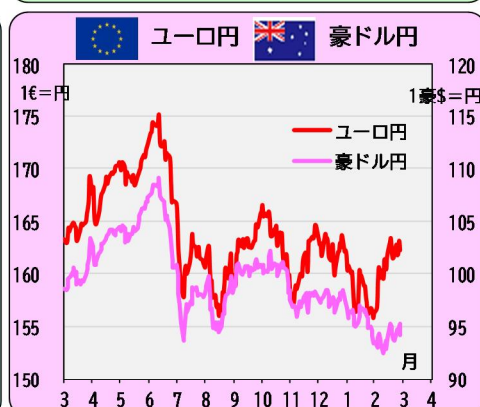
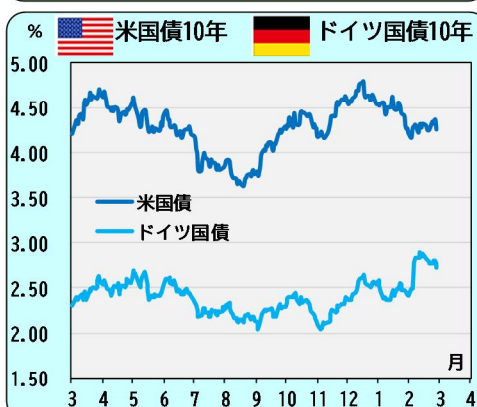
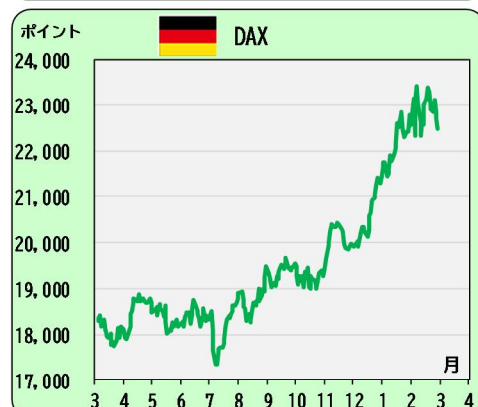
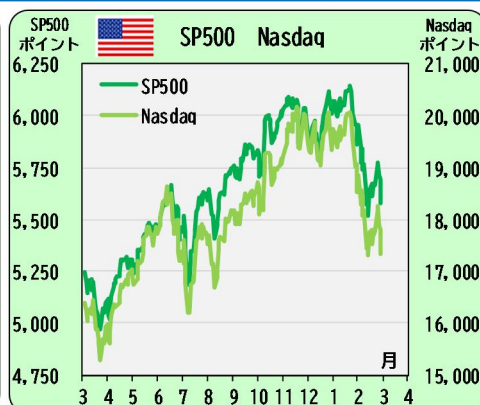
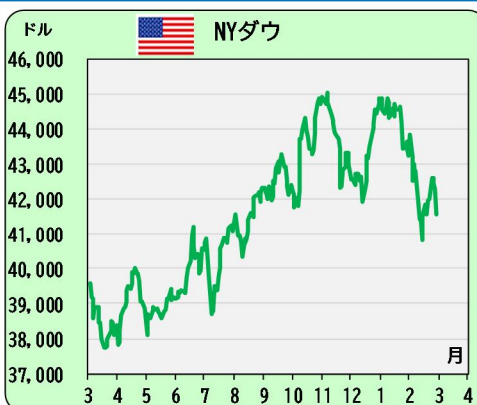
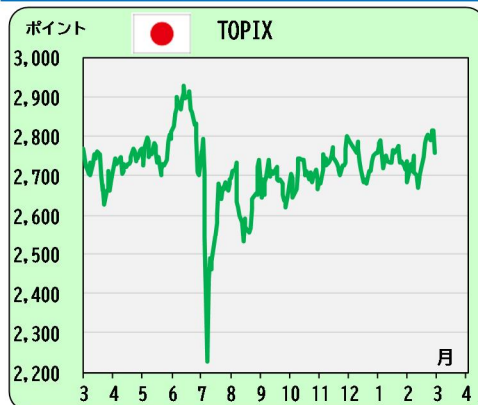


○今週の注目指標 ※内容および日程が変更される場合があります。

月 日	国 内	海 外
3/31(月)	鉱工業生産指数(2月) 小売業販売額(2月) 住宅着工統計(2月)	
4/1(火)	完全失業率(2月) 日銀短観(2025年3月調査)	米国: ISM製造業景況指数(3月)
4/2(水)		
4/3(木)	国債入札(10年)	米国: 貿易収支(2月) 米国: ISM非製造業景況指数(3月)
4/4(金)	家計調査(2月)	米国: 雇用統計(3月)

③その他チャート集

直近 1 年間



※Bloombergのデータを使用して浜銀総研作成

※頻出英字略称用語一覧

略称	正式名称	略称	正式名称	略称	正式名称
AI	人工知能	FRB	米連邦準備理事会	PBR	株価純資産倍率
CTFC	米商品先物取引委員会	FTA	自由貿易協定	PCE	個人消費支出
CPI	消費者物価指数	GDP	国内総生産	PER	株価収益率
ECB	欧州中央銀行	IMF	国際通貨基金	PMI	購買担当者景気指数
ETF	上場投資信託	IEA	国際エネルギー機関	PPI	卸売物価指数(生産者物価指数)
EU	欧州連合	ISM	米供給管理協会	SQ	特別清算指数
FDI	海外直接投資	OECD	経済協力開発機構	TPP	環太平洋経済連携協定
FF	フェデラルファンド	OPEC	石油輸出国機構	WSTS	世界半導体市場統計
FOMC	米公開市場委員会	OPEC+	OPEC加盟国と非加盟国の枠組み	WTI	ウエストテキサスインターメディアート(原油)

●ご留意事項

- ・本レポートの目的は情報提供であり、売買の勧誘ではありません。本レポートに記載した内容は、発行日午前9時までの情報にもとづく浜銀総合研究所・調査部の見解であり、レポート発行後に予告なく変更することがあります。また、本レポートに記載されている情報は、浜銀総合研究所・調査部が信頼できると考える情報源にもとづいたものですが、その正確性、完全性を保証するものではありません。最終的な投資判断はお客様ご自身でなさるようお願いいたします。
- ・本レポートに関するお問い合わせは浜銀総合研究所・調査部までお願いいたします。